

平成 2 3 年度

事業計画書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

〔1〕運 営 方 針	1
〔2〕収 支 予 算 概 要	2
〔3〕協 会 の 機 構	3
事 務 局 組 織	4
事 務 局 職 員 数	5

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	6
II. 事 業 計 画	8
〔1〕動物飼育及び展示業務	8
〔2〕野生生物保全業務	10
〔3〕教育普及業務	11
〔4〕市民・団体との協働業務	15
III. 各園の主な展示及び施設	17
〔1〕恩賜上野動物園	17
〔2〕多摩動物公園	18
〔3〕葛西臨海水族園	19
〔4〕井の頭自然文化園	20

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	22
II. 事 業 計 画	23
〔1〕便益施設の経営	23
〔2〕その他の事業	24

第1 運営の概要

〔1〕 運営方針

公益財団法人として2年目、また指定管理期間10年の折り返し点となる今年度は、引き続き公益性の高い事業を展開するとともに、これまでの蓄積をベースに、来園される方々により多くの感動、より上質なサービスを提供できる動物園・水族園の実現を目指していく。

2月には、恩賜上野動物園で約3年ぶりにジャイアントパンダの来園が実現した。また新たな展示施設において、ホッキョクグマ等を水中からも観察できる展示を開始する。今年度はこのような注目度の高い動物の展示はもとより、日本産の身近な動物にも光を当てた取組みを行う。具体的には、今年は国連の提唱する「国際コウモリ年」であること、また、小笠原諸島の自然の次世代への継承が課題とされることから、これらに関連した日本産の身近に生息する野生動物に着目し、その保全のための展示や講演会、企画展等を開催する。生物多様性への取組みも、昨年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で終わらせることなく、今後ともその重要性をアピールしていく。

こうした様々な取組みとともに開園時間延長等の利用者サービス向上を引き続き行い、東京都と共同で実施する「Visit Zoo キャンペーン」として積極的に展開していく。2月に開始したジャイアントパンダ保護サポート基金事業も着実に実施する。

4月より、新たに井の頭自然文化園で売店の営業を開始する。井の頭の特徴を十分に活かし、魅力的な商品構成や内容の充実によって、来園者に親しまれ喜ばれる店舗づくりに努めていく。

各事業における今年度の主な取組み事項は、以下のとおりである。

事業区分	主な取組み事項
公益目的事業	(1) 飼育展示や繁殖技術等の着実な継承と、効果的な展示改善の実施 (2) 繁忙期の休園日の開園や季節に合わせた開園時間延長による利用促進 (3) 国内外の研究機関とも連携した「種の保全」活動の推進 (4) 国際コウモリ年や小笠原に関連した様々なイベント開催と情報発信 (5) 誰でも楽しみながら学べる、多様な教育普及プログラムの展開 (6) 動物園サポーター制度やボランティアとの連携、ジャイアントパンダ保護サポート基金事業等、民間協働の展開 (7) 「ようこそ」の心が伝わる接客サービスの提供や、きめ細やかな施設維持管理による快適な観覧環境の提供
収益事業	(1) 展示内容やイベントと連動した、効果的な販売促進策の展開 (2) 時機を捉え各園の特徴を活かした魅力的なオリジナル商品の開発 (3) 安全・安心な商品・サービスの提供と、効率的な事業運営 (4) 民間資金を活用したジャイアントパンダ保護サポート基金への貢献

〔2〕 収支予算概要

(単位：千円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収益	2,454	—	3,706	6,160
特定資産運用益	10	—	—	10
受取会費	6,710	—	—	6,710
事業収益	69,570	2,621,656	—	2,691,226
受取寄付金	9,114	—	—	9,114
受取委託料(※注)	5,448,333	—	184,554	5,632,887
雑収益	5,576	16,100	30	21,706
経常収益計	5,541,767	2,637,756	188,290	8,367,813
(2) 経常費用				
事業費	5,663,506	2,369,031	—	8,032,537
管理費	—	—	274,024	274,024
経常費用計	5,663,506	2,369,031	274,024	8,306,561
当期経常増減額	△121,739	268,725	△85,734	61,252
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	120,000	△212,073	92,073	0
税引前当期一般正味財産額	△1,739	56,652	6,339	61,252
法人税等	—	21,500	—	21,500
当期一般正味財産増減額	△1,739	35,152	6,339	39,752
一般正味財産期首残高	593,837	856,080	△2,877	1,447,040
一般正味財産期末残高	592,098	891,232	3,462	1,486,792
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	10,700	0	0	10,700
一般正味財産への振替額	9,114	0	0	9,114
当期指定正味財産増減額	1,586	0	0	1,586
指定正味財産期首残高	53,311	0	0	53,311
指定正味財産期末残高	54,897	0	0	54,897
III 正味財産期末残高	646,995	891,232	3,462	1,541,689

注：受取委託料5,632,887千円は東京都からの指定管理委託料

〔3〕 協会の機構

協会の機構は、議決・監督、執行、諮問、監査及び協力の5つの機関から構成され、その組織及び任務は次のとおりである。

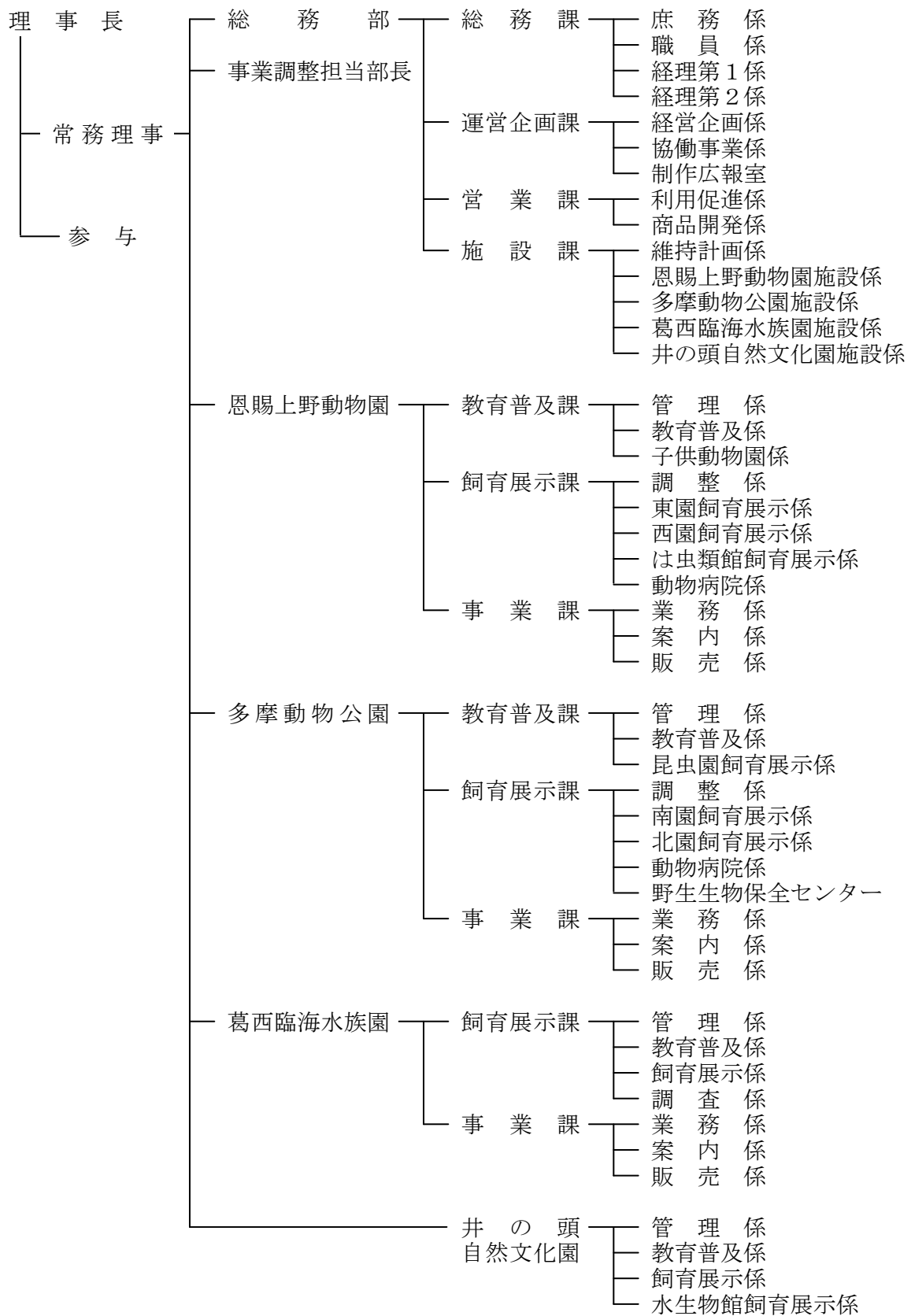
○ 総 裁 常陸宮殿下

○ 会 長

○ 機関名称及び任務等

機関名	組織名	任 務 等
1. 議決・ 監督機関	評議員会	理事及び監事の選解任、定款の変更等、協会運営に関する重要な事項を決定するとともに、決算の承認等、理事の業務執行を監督する。
2. 執行機関	理 事 会	事業計画、予算の議決等、本協会の業務執行を決定する。
	理 事 長	本協会を代表し、その業務を執行する。
	常務理事	理事長を補佐し、本協会の業務を分担執行する。
	参 与	理事長が委嘱した特定事項を処理する。
	事 務 局	事務に従事する。
3. 諮問機関	顧 問	理事長の特別な諮問に応える。
4. 監査機関	監 事	業務執行及び財産の状況を監査する。
5. 協力機関	賛助会員	理事会が承認し、規定の会費を納入する者
	特別会員	功労者の中から理事会が推薦した者
	準 会 員	東京動物園友の会会員

【事務局組織】



【事務局職員数】

(人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員	合 計
141	126	267	145	0	145	286	126	412

(平成23年4月1日予定)

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園（恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園）の指定管理者として管理運営を行うとともに、自主事業として特色ある教育普及活動と市民・団体との協働による事業を実施する。

I. 事業総括

〔1〕 総事業費

公益目的事業費	5,663,506千円
---------	-------------

〔2〕 管理施設の概要と運営方針

1. 恩賜上野動物園

所在地	台東区上野公園、池之端三丁目
開園面積	142,897.89㎡
運営方針	日本を代表する総合動物園として、動物と動物園について多様な情報を国内外に発信する。 ①いきいきとした動物の生態と行動を見せる展示 ②国内外の動物園ネットワークの強化 ③外国人観光客の積極的な誘致 以上に加え、今年度は開園130周年を記念した各種催物を実施する。

2. 多摩動物公園

所在地	日野市程久保六丁目、七丁目、南平八丁目
開園面積	601,372.54㎡（うち無料開園区域77,508.22㎡）
運営方針	丘陵地の自然を生かして生態展示を行うとともに、自然度の高い動物公園として充実させる。また、都立動物園における野生生物保全活動の拠点とする。 ①生態的展示・群れ展示の推進 ②環境教育機能の充実 ③国内外の関係機関と連携した野生生物保全活動の推進

3. 葛西臨海水族園

所在地	江戸川区臨海町六丁目
開園面積	85,958.90㎡
運営方針	世界の海や東京の海の生物を飼育展示し、「海と人との交流の場」とする。 ①水生生物の展示の充実 ②教育機能の充実 ③快適で魅力的な空間の創出

4. 井の頭自然文化園

所在地	武蔵野市御殿山一丁目、三鷹市井の頭四丁目
開園面積	115,500.00㎡
運営方針	地域に密着し、幼児から高齢者まで、ゆったりとくつろげる動物園として、日本産動物を中心に、展示・飼育・繁殖を行う。 ①日本産動物の展示と身近な動物とふれあえる体験機能の強化 ②子どもたちが楽しみながら学べる場の提供 ③園内の文化施設を活用した各種催物の開催 以上に加え、平成24年5月の開園70周年に向けた準備を始める。

Ⅱ. 事業計画

〔1〕 動物飼育及び展示業務

展示動物を適切に飼育管理し、動物の特性を引き出す展示の工夫を行うとともに、快適な観覧環境を提供し、より魅力的な動物園・水族園の実現を図る。

業務区分	内 容
1. 展示動物の収集・管理	<p>魅力的な展示を行うための展示計画を策定し、国内外の関係機関と連携して収集を行うほか、血統の登録管理や動物園間の動物の交換、貸借の調整、飼料の調達等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 展示計画の策定(2) 動物の移動・交換・貸借(3) 葛西臨海水族園における展示動物の収集業務(4) 動物台帳管理(5) 血統管理・登録事務(6) 動物飼料に関する事務 ほか
2. 飼育展示・調査研究	<p>動物の健康と飼育環境管理を適切に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により動物の特性を引き出すための展示改善を積極的に行う。また、飼育展示を通じて得られた野生動物に関する研究成果等について、研究会や出版物等で積極的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 飼育、展示及び繁殖業務(2) 飼育、展示及び繁殖に関する調査研究(3) 飼育環境管理(4) 飼育記録作成及び飼育情報提供(5) 展示改善(6) 動物の脱出等の事故防止(7) 研究成果の発表 ほか
3. 動物病院業務	<p>飼育職員と連携して病気等の予防策を講じ、異常の早期発見に努め、適切な治療を行う。また、検疫や感染症対策等の関連業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 日常診療、予防業務(2) 飼育と連携した繁殖業務(3) 獣医技術に関する調査研究(4) 検疫業務、病理解剖、検体保存(5) 医療器材・器具及び医薬品管理(6) 感染症対策等の安全確保 ほか

業務区分	内 容
4. 施設維持管理・園内サービス	<p>快適な観覧環境を来園者に提供するために、動物舎等の施設の維持管理、園内の警備保安、園内清掃及び廃棄物搬出、入場門での入園券売改札や入園料の納入、案内所等での利用案内や園内サービス等を行う。</p> <p>(1) 園内施設・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ①動物舎、園路広場、園内施設、建築物、工作物等の各種施設の維持管理 ②電気、機械、昇降機、空調、飼育用循環水設備、上下水道、衛生設備、通信放送設備、消防設備、水質浄化施設等、各種設備の保守、維持補修 ③自家用電気工作物管理業務 ④樹木、株物、地被植物、樹林地等の維持管理 <p>(2) 園内の保安及び環境美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①巡回警備による入園者への利用案内、整理・誘導、防犯等 ②園内の清掃及び収集したゴミ、動物舎の寝糞・汚物の搬出 <p>(3) 入園券の売改札及び利用案内・園内サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入園券の売改札 ②有料施設等の使用承認事務及び入園料・使用料・占用料の徴収と東京都への納付事務 ③園内における利用者案内、迷子相談、救急救護、園内放送、身障者用車椅子の貸出、拾得物・遺失物対応等のサービス ④電話による問い合わせ対応 ⑤案内図等の作成 ⑥来園者にわかりやすいサイン・色彩計画の作成 ⑦上野動物園内の広告料収入による案内誘導サインの整備 <p>(4) 利用促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ホームページによる利用案内、最新ニュースの提供 ②ポスター、看板等による催物、園内施設の紹介 ③学校、旅行代理店等へのダイレクトメール送付 ④各園の利用実態に合わせた休園日の開園と開園時間の延長 ⑤海外旅行代理店への情報提供等による外国人観光客の誘致 <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①園内動物の繁殖や行事等の広報発表 ②苦情、要望、意見への対応 ③園内での事故、猛獣脱出時等の緊急時対応 ④台風や大雨、大雪、震災等の自然災害への対応

〔2〕 野生生物保全業務

「野生生物保全センター」を中心に4園が連携し、野生動物生息域内外の保全活動、調査・研究及び情報収集・発信等を推進する。

業務区分	内 容
1. 生息域外保全活動	<p>小笠原のアカガシラカラスバトやオガサワラシジミの飼育下累代繁殖の取組みやジャイアントパンダ等の希少種を保全対象種に定めて繁殖と系群保全活動を行うとともに、普及啓発等に努める。また、環境省が進めるツシマヤマネコやトキの保全の取組み等の保護増殖事業へ協力していくほか、佐渡トキ保護センターにおけるトキの健康管理及び飼育指導に関する業務を新潟県から受託し、定期健康診断等を実施する。</p>
2. 生息域内保全活動	<p>これまでの飼育や繁殖で得られた知識や技術を希少動物の繁殖地域内での保全活動に活用している。多摩市連光寺におけるイモリ生息地調査や都内に生息するメダカの（DNA解析に関連した）生息状況調査等、東京産の野生生物の保全に取り組むほか、国内外の団体等と連携し、生息地での保全活動に協力していく。</p>
3. 調査研究・生物学技術の応用	<p>DNA解析システム等を用いた調査研究を実施し、技術開発に努めるとともに、遺伝的解析による種・亜種の同定や、配偶子や体細胞の冷凍保存技術、糞及び尿中の性ホルモン濃度測定による妊娠判定や発情周期の解明等、繁殖に関わるバイオテクノロジーの先進技術を希少動物の保全に活用している。</p>
4. 情報収集・発信	<p>国際会議への参加やシンポジウムの開催、日本動物園水族館協会（JAZA）、世界動物園水族館協会（WAZA）、保全繁殖専門家グループ（CBSG）等との連携及び協力により、各分野の専門家との交流・情報交換を行う。また、保全活動を通じて得られた情報と合わせ、生物多様性の重要性を伝えるメッセージを、ホームページや出版物等によって広く発信する。</p>

〔3〕 教 育 普 及 業 務

社会教育施設として子供から大人まで、様々な入園者を対象に「楽しみながら学べる」各種のプログラムを実施する。

業務区分	内 容
1. 身近に生息している野生動物に関する取組み	<p>身近に生息している野生動物をはじめ、生物多様性保全活動に関する教育普及活動を展開する。</p> <p>(1) 国連の提唱する国際コウモリ年にちなみ、日本産コウモリに関する講演会等を開催するほか、東京湾の生き物をテーマにした企画展を行う。</p> <p>(2) 小笠原諸島の自然の次世代への継承のために、小笠原の野生動物をテーマとした企画展や講演会を開催する。</p>
2. 園内プログラム	<p>専門の動物解説員による園内ガイドツアー、動物に関する質問・相談への対応、飼育担当者による動物解説や飼育動物とのふれあい、特設展・企画展の開催等により、動物やその生息環境の情報を伝える。</p> <p>(1) 動物解説業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一般入園者を対象とした園内ガイドツアー ②学校団体に対しての見学指導 ③その他の団体を対象とした園内ガイドツアー ④団体引率の事前指導 ⑤クイズラリー等各種特別企画 ⑥ニュースレターの発行 ⑦教材の開発と貸出 ⑧ワークシートを活用した動物観察指導 <p>(2) 動物相談室の運営</p> <p>上野・多摩に設置した動物相談室において、動物園及び動物に関する一般からの質問に応じる。</p> <p>(3) 通年プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①フィーディングタイム ②キーパーズトーク ③ふれあいコーナー ④スポットガイド ⑤セルフガイド（スタディシート） ほか <p>(4) 企画プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①飼育の日（4/19）催物 ②国際博物館の日催物（上野：国立科学博物館、東京国立博物館と共催）

業務区分	内 容
	<p>③開園記念日催物 ④動物愛護週間行事 ⑤園内観察会 ⑥季節の催物（企画活動） ⑦映画・ビデオ上映 ほか</p> <p>（5）特設展・企画展 上野動物園のズーポケット・ビバリウム、多摩動物公園のウォッチングセンター、葛西臨海水族園の特設展示場・レクチャールーム、井の頭自然文化園の資料館・水生物館等において、テーマに基づき、写真や解説等のパネル、映像、教材等を使った展示を行う。</p>
<p>3. 体験プログラム・フィールドプログラム</p>	<p>子供から大人まで幅広い年齢層を対象に、自然科学への探求心を深めるための体験プログラムや、環境保全意識の向上、動物園や野生動物に関する知識を深めることを目的とした野外観察会や講演会を開催する。</p> <p>（1）サマースクール、大人のための飼育体験、リバーウォーク（葛西）、ドリームナイト・アット・ザ・ズー（井の頭）等、展示動物や園内施設を活用した体験プログラムの実施 （2）里山の動物観察会や、セミの羽化とコウモリの観察会、ムササビ観察会等、野外フィールドでの各種観察会の実施 （3）野生動物の生態や生物多様性、自然環境についての知識を深める講演会や映画上映会の実施</p>
<p>4. 学校教育との連携</p>	<p>学校教育との連携を深めるため、学校教員を対象とした研修会、生徒・学生を対象とした職場訪問・体験指導等の園内プログラム、学校団体の受入れに対応するパッケージプログラムの開発や、出張授業等を実施する。</p> <p>（1）学校教員対象講座の開催 （2）職場訪問の受入れ及び体験指導 （3）大学生等の実習生の受入れ及び指導 （4）教育プログラムの開発 （5）出張授業 （6）大学等への講師派遣 ほか</p>
<p>5. 会員組織運営</p>	<p>「東京動物園友の会」（一般会員約3,200名、ジュニア会員約200名）の運営を行い、会員対象の見学会等を行う。</p> <p>（1）友の会機関誌、冊子の送付 （2）案内パンフレット作成・配布等入会促進活動 （3）野生動物観察会や「友の会の日」（会員の集い）等、会員対</p>

業務区分	内 容
	<p>象催物の実施 (4) 動物園教室等のジュニア会員対象催物の実施</p>
6. 資料の収集・公開	<p>野生動物及び動物園等に関する内外の専門書・学術雑誌等の文献や視聴覚資料を収集公開する。</p> <p>(1) 定期刊行物、関係図書、視聴覚資料の収集 (2) 恩賜上野動物園資料室での資料閲覧 (3) インターネットによる図書検索システムの運用 (4) オリジナルビデオ作品 (11点) の公開</p>
7. 機関誌の発行	<p>野生動物及び動物園等に関する情報を提供するために、下記の出版を行う。</p> <p>(1) 季刊雑誌「どうぶつと動物園」の発行 体裁：A4判変形・約50頁 発行部数：約5,000部 主な記事構成：①飼育展示動物、野生動物に関する記事 ②都立動物園、国内外の動物園ニュース ③動物園に関するエッセイ、詩のページ ④動物写真を主とした企画ページ</p> <p>(2) ジュニア会員向け冊子「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行 (年2回) 体裁：A4判8頁 発行部数：約800部 主な記事構成：特集、クイズ、動物ランキング等</p> <p>(3) 「高碕賞」の表彰 「どうぶつと動物園」に年度ごとに掲載された記事及び写真の中から優れた作品を表彰する。</p>
8. インターネット事業	<p>ホームページ「東京ズーネット」やメールマガジン「ズー・エクспレス」、携帯電話サイト、ジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」により、動物園の最新情報を配信するとともに、動物園の案内情報について利便性を考慮した機能やデザインの拡充を図る。</p> <p>(1) ホームページ「東京ズーネット」の運営 ①都立動物園の案内情報提供 ②動物園最新ニュース ③野生動物電子図鑑 ④催物・行事情報・参加受付 ⑤音声・動画を活用したオンライン学習 ⑥恩賜上野動物園資料室に所蔵する図書の検索</p>

業務区分	内 容
	<p>⑦動物園サポーター情報提供</p> <p>⑧友の会オンライン入会（決済）受付</p> <p>(2) メールマガジン「ズー・エクスプレス」の発行 登録者に対し、電子メールを通じて動物園・水族園の最新情報を直接配信する。</p> <p>(3) 携帯電話通信サイトの運営 携帯電話ネットワークによる広範かつ利便性の高い情報提供の実施</p> <p>(4) ジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」の運営</p> <p>①上野動物園の案内情報提供</p> <p>②動画等を活用したパンダに関する知識情報提供</p> <p>③最新ニュース</p> <p>④ジャイアントパンダ保護サポート基金について</p>
9. 映像記録資料制作	<p>飼育動物の行動記録や動物園情報、園内外の行事・催物を撮影して記録する。ビデオ映像は、園内の各種イベント等での上映や、広報資料として報道関係者に提供するほか、ホームページ上でも配信する。</p> <p>(1) 動物写真撮影</p> <p>(2) ビデオ作品制作</p> <p>(3) 広報用映像資料の制作</p>
10. ユビキタス運営業務受託	<p>東京都からの委託により、携帯ガイド端末ユビキタスコミュニケーター及びユビキタス電動カートを使い、恩賜上野動物園内の動物等の情報を取得できるユビキタスサービスの運営業務を実施する。</p> <p>(1) 上野動物園ユビキタス携帯ガイド端末サービス運営業務 業務内容：①申込受付、操作方法説明、貸出・返却受付、トラブル対応等の利用者接遇業務 ②端末及び周辺機器の点検・補修等の保守点検管理業務、コンテンツの更新 ③その他、事前申込受付やアンケートの実施等</p> <p>(2) 上野動物園ユビキタス電動カートサービス試験運用業務 業務内容：①申込受付、操作方法説明、利用中のガイド、トラブル対応等の利用者接遇業務 ②電動カートの動作状況の確認、充電等の保守点検管理業務、コンテンツの更新 ③その他、アンケートの実施や利用実績の整理等</p> <p>受託期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日</p>

〔4〕 市民・団体との協働業務

ボランティアやサポーター、関係団体等との協働、基金事業を行う。

業務区分	内 容
1. ボランティアとの協働	<p>(1) 教育普及・園内案内ボランティアとの協働 恩賜上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園において、展示動物の解説等の教育普及業務や来園者案内等のボランティア活動を行っている「東京動物園ボランティアーズ」(約600名)と葛西臨海水族園で同様の活動を行っている「東京シーライフボランティアーズ」(約100名)の育成研修と活動支援を行う。</p> <p>①ボランティア研修会の開催 ②ユニフォーム、ニュースレターの発行等活動経費補助</p> <p>(2) 植栽、樹林地管理に関するボランティア、NPOとの協働 ボランティアグループ、NPOとの協働により、恩賜上野動物園内の植栽、多摩動物公園内の樹林地管理活動を行う。</p>
2. サポーター事業	<p>個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進する。</p> <p>(1) 都立動物園・水族園におけるサポーター制度に関する事務、登録者管理 (2) サポーター資金による施設改善 (3) サポーター(登録者)を対象とした園内見学等催物(サポーターズデイ)の実施</p>
3. 関係団体との協力	<p>国内外の動物園関係団体・学会等に参加し、情報交換や募金活動への協力を行うとともに、関係団体への協力・支援を行う。</p> <p>(1) 国際自然保護連合(IUCN)の委員会の一つである種保存委員会(SSC)における保全繁殖専門家グループ(CBSG)等の活動を支援する。 (2) (社)日本動物園水族館協会、WWFジャパン、(財)日本鳥類保護連盟、(財)山階鳥類研究所等、動物園事業に関する団体・学会に参加し、情報の交換や募金活動への協力を行う。 (3) 環境省他計11団体による「動物愛護週間中央行事」に協賛する。</p>

業務区分	内 容
4. 基金事業	<p>都民をはじめ多くの人々に、野生動物の保護やその生息環境保全についての理解を促し、基金を募る事業を行う。</p> <p>(1) 東京都と中国が協力して行うジャイアントパンダ保護繁殖事業に寄与する事を目的として設置した、ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用し、国際的なパンダ保護活動への支援やパンダ保護に向けた普及啓発活動等を行う。</p> <p>(2) 野生生物保全活動を対象とした助成事業について検討し、基金整備のための準備を進める。</p>

Ⅲ. 各園の主な展示及び施設

〔1〕 恩賜上野動物園

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. 東園	パンダ舎	東京都と中国野生動物保護協会の協定に基づき、平成22年度に施設を改修し、中国の希少動物であるジャイアントパンダの飼育展示を再開した。中国との共同研究プロジェクトにより繁殖や共同研究に取り組む。
	日本の動物	五重塔付近に鳥類を中心に日本産の動物を展示する。国内のライチョウの保全に向けて、亜種であるスバルバルライチョウの飼育繁殖にも取り組む。 (エゾシカ、タンチョウ、ルリカケスほか)
	ゾウ舎	インド、タイから寄贈されたアジアゾウ4頭を飼育展示し、繁殖を目指す。
	サル山	昭和6年に建築、公開され、動物園の「サル山」の原点となった。平成22年より世界最北に分布する青森県・下北半島のニホンザルの群れを展示する。
	ゴリラ・トラの住む森	ゴリラ、トラ等をそれぞれの生息地に合わせた植栽や擬岩、擬木により自然環境を再現し、展示する。 (ニシローランドゴリラ、スマトラトラ、インドライオンほか)
	バードハウス	昭和59年に公開した室内型施設。熱帯及び温帯産の鳥類を飼育し、植栽を多く取り入れ、樹上性、地上性の鳥類を複合展示する。 (カンムリシロムク、アカカザリフウチョウ、アンデスイワドリ、ボウシゲラほか)
	クマたちの丘	平成18年公開。クマの冬眠展示や、タヌキやカワウソとの同居展示等を行う。 (ヒグマ、ツキノワグマ、マレーグマほか)
	ホッキョクグマ舎他	ホッキョクグマ舎及びアシカ・アザラシ舎の展示施設を、水中からも観察できる新展示として平成23年の公開を目指して、東京都が整備を進めている。
2. 西園	アイアイのすむ森	マダガスカルを原産とする代表的な動物を展示する。 (アイアイ、ワオキツネザル、フォッサほか)
	カバ舎・サイ舎・キリン舎	アフリカの沼地、草原、森林に生息する草食動物を飼育展示する。コビトカバ舎ではガラス越しに水中での行動展示を行う。 (カバ、コビトカバ、クロサイ、キリン、オカピほか)
	小獣館	1階に小型の哺乳類、地階に夜行性の哺乳類を展示する。 (コモンマーモセット、ハダカデバネズミ、アルマジロ、コウモリ類ほか)
	走禽舎	昭和55年公開。多様な動物を飼育展示する。 (ホフマンナマケモノ、ツチブタほか)
	水禽舎	世界各地のガン・カモ類、サギ類を飼育展示するほか、トキ類の飼育により、日本のトキの繁殖技術の向上に寄与していく。 (カササギガン、クロツラヘラサギ、ホオアカトキ、マダガスカルトキほか)
	フラミンゴ舎	平成18年度に寄付金とサポーター資金を活用して建築し、繁殖に取り組んでいる。 (ベニイロフラミンゴ)
	ハシビロコウ舎	ハシビロコウ専用の展示施設として、平成23年に展示場を拡大。国内初の繁殖を目指す。

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
	レッサーパンダ舎	平成23年に東京都が新しい飼育展示施設を整備し、東園で飼育展示されていたレッサーパンダのほとんどを西園に移動した。動物舎内の樹木等を活用した行動展示を行う。
	ズーストック舎	非公開の鳥類飼育施設や人工孵化・育雛施設を合わせ持ち、希少野生動物の保護・増殖を行っている。 (アカガシラカラスバトほか)
	両生は虫類館 (ビバリウム)	国内外の両生類・は虫類を中心に飼育展示するほか、本年度は「身を守る」をテーマに特設展を開催する。 (オオサンショウウオ、イリエワニ、アジアアロワナ、オーストラリアハイギョ、ホウシャガメ、アミメニシキヘビほか)
	子ども動物園	子供たちが動物と身近に親しむことによって、動物に対する興味や自然への理解、生命を大切にする気持ちを育むことを目的に開設された。在来家畜や身近な動物による様々なプログラムにより来園者への教育普及活動を行う。 (ヤギ、ブタ、ニワトリ、在来家畜ほか)
	動物園ホール	1階の大ホール、資料展示室(ズーポケット)では、講演会や映画会、干支展等の特設展示を行う。2階には動物と動物園に関する国内外の書籍、専門雑誌を集めた資料室があり、利用者の閲覧に供する。

〔2〕多摩動物公園

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. アフリカ園	サバンナ放飼場	広い放飼場でアフリカの草原に生息する草食獣、大型鳥類を複合展示する。 (アミメキリン、グレビーシマウマ、シロオリックス、ダチョウ、モモイロペリカンほか)
	ライオン園	昭和39年に世界に先駆けて開発された、バスに乗って放飼場内から間近で動物を観察できる施設。約1ヘクタールの放飼場でライオンを群れで展示する。
	アフリカゾウ舎	大放飼場ではプールでの水浴する姿や丸太を吊した遊具を鼻で揺するダイナミックな様子を展示する。小放飼場では強化ガラス製の小窓越しに間近に観察ができる展示を行う。
	チンパンジー舎	大放飼場内に綱渡り施設やブランコ、築山や高木を設け、チンパンジーの動きを立体的に展示している。また、人工アリ塚やチンパンジー用の自販機・空缶回収機を設置し、類人猿の知能の高さ、道具使用も展示のテーマとする。
2. アジア園	オランウータン舎	運動場と「飛び地」が9本のタワーとロープでつながっている。全長約150mのロープを腕わたりしながらオランウータンが移動する「スカイウォーク」を設置する。平成22年度には新規展示動物としてシロテテナガザルを導入。繁殖等に取り組んでいく。
	ユキヒョウ舎	中央アジアの山岳地帯を再現し、ユキヒョウの岩場での暮らしを展示する。
	シフゾウ舎	野生では絶滅してしまった中国産偶蹄類のシフゾウを飼育展示する。
	マレーバク舎	放飼場の屋上を観覧コーナーとしているほか、身近に観察できる屋内展示室では、透明アクリル板を通して水中の生態も展示する。
	アジアの沼地	水辺に生息する動物を本来の環境に近い形で展示することをテーマとして平成20年度に全面公開した。イ

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
		インドサイやスイギュウのほかウオークイン・バードケージにおいて鳥類の飼育展示を行う。
	モグラのいえ	長期飼育の難しいモグラ類や、世界最小の哺乳類といわれるトウキョウトガリネズミの展示を行う。平成21年度よりカワネズミの飼育展示を開始。飼育下繁殖に取り組んでいく。
	アジアの平原	東京都が整備を進める新エリア「アジアの平原」展示に向けて、モウコノウマ等アジアに生息する希少野生動物の飼育展示や保全に向けた新規個体導入等の準備を進める。
	さくら広場・なかよし広場	新しく整備した広場を活用し、イベントやふれあいの場としての利用など、体験学習・環境学習を強化する。
3. オーストラリア園	コアラ館	昭和59年公開。コンピューターにより室温・照明等を制御し、オーストラリアの気象条件を再現した展示を行う。(コアラ、オーストラリアガマガチヨタカほか)
	有袋類展示	アカカンガルー、ウォンバットのほか、走鳥類のエミュー等オーストラリア産動物を併せて展示する。
4. 昆虫園	昆虫園本館	老朽化に伴いリニューアルし平成14年に公開。生態展示のほか、標本・模型の展示やふれあいコーナーを設けており、昆虫を楽しみながら学べる施設として活用する。 (グローワーム、ハキリアリ、ヘラクレスオオカブトほか)
	昆虫生態園	生きている昆虫を周年展示する。特に来園者がその中を散策できる温室部では、林・草原等を再現し、年間を通じて約700匹の蝶を放ち、展示する。平成22年度にはウォッチングセンターでホタルの生体展示を行った。引き続きホタルの展示・繁殖に向けた取組みを継続していく。 (オオゴマダラ、トノサマバッタほか)
5. その他	ウォッチングセンター	標本等の館内展示のほか、園内案内ビデオや図書コーナー、動物相談コーナーがある。館内にある動物ホールでは講演会等を開催する。
	育雛舎	野生生物保全センターの活動拠点として、希少鳥類の人工増殖に取り組み、育雛個体等の展示を行う。 (ニホンコウノトリ、クロツラヘラサギほか)
	トキ舎	環境省が進めるトキの分散飼育に協力するため、佐渡トキ保護センターから受け入れ、非公開施設で繁殖や研究に取り組む。ウォッチングセンターでライブカメラによる映像を公開している。

〔3〕 葛西臨海水族園

エリア名	展示名	概要 (主な展示動物)
1. 本館展示	大洋の航海者	外洋性の魚類を展示。2200トンのドーナツ型大水槽では、クロマグロの産卵に成功しており、仔魚を育成し繁殖を目指す。 (クロマグロ、スマ、アカシユモクザメほか)
	世界の海	太平洋、インド洋、大西洋及び両極洋の代表的な海域から生物を収集して展示しており、希少種であるリーフィードラゴンの産卵・繁殖を目指す。 (ストロベリーアネモネ、ヒカリキンメダイ、テングハギ、ナーサリーフィッシュ、アカツキハギ、イエローバンドエンゼルフィッシュ、ランプサッカーほか)
	深海の生物	水深150m～1000mに棲む魚類及び無脊椎動物を展示する。

エリア名	展示名	概要 (主な展示動物)
		(キンメダイ、スポッテッドドラフトフィッシュ、トリノアシ、ジャイアントアイソポッドほか)
	渚の生物	半分屋外にあり、東京湾口部の岩礁帯を再現。波と潮の干満を再現した波打ち際には2つのタイドプールがあり、東京湾に生息する生物の生態や行動を展示する。 (タマキビガイ、ボラ、メバル、ゴンズイほか)
	しおだまり	ウニやヒトデ等身近な磯の生物に触れることができる展示を行い、解説を実施する。
	ペンギンの生態	波のプールと大きな擬岩からなる陸上の展示場を有した世界最大規模のペンギン展示施設。温帯・極地帯のペンギン類を飼育し、その多様性と生態や行動を展示する。また上野から移管したオウサマペンギンについては冬季展示と繁殖に取り組む。 (フンボルトペンギン、フェアリーペンギン、イワトビペンギン)
	海藻の林	海藻の林と呼ばれる、大型褐藻類のジャイアントケルプを中心とした岩礁地帯を再現し、生息する様々な生物を展示する。 (ストライブドサーフパーチ、ガリバルディ、ミズダコほか無脊椎動物等)
	東京の海	亜熱帯性気候の小笠原諸島に始まり黒潮に洗われる伊豆七島を経て東京湾に到る、「東京の海」の生物を展示する。 (ユウゼン、ウメイロモドキ、テングダイ、アオリイカ、トビハゼほか)
	葛西の海	「東京の海」2階のキャットウォークに、葛西周辺の海に生息する生物を展示する。 (エドハゼ、ベンケイガニ、アサリほか)
	海鳥の生態	北半球の寒帯に分布するウミスズメ科の鳥類を飼育し、水中を羽ばたいて泳ぐ様子を展示する。 (エトピリカ、ウミガラス)
	特設展示場	テーマを決めた特設展示を開催する。本年度は引き続き海の生き物とふれあう展示「タッチンフィーリン」を実施する。
	実験展示・クラゲ水槽	巻き貝による貝の摂餌実験、ウミホタルの発光実験を公開している。クラゲ水槽では、ポリプ、幼体、成体を展示する。またトビツク的な生物の展示を行う。
	レクチャールーム	学校団体向けの特別レクチャーや各種講演会を行うほか、夏休み期間等時期によっては短期間の特設展や企画展を開催する。
2. 屋外展示	水辺の自然	広い園地を利用して、河川上流部、中流部、平地の池を「溪流」「流れ」「池沼」として再現している。
3. 予備飼育 (繁殖センター)		展示を支えるため、搬入生物の検疫、餌付け、育成、治療等を行う。

〔4〕 井の頭自然文化園

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. 本園	武蔵野ハビタット	本園の中央部にある大放飼場。武蔵野の面影を伝えるアカマツ林の中に、タンチョウ、ヤクシカ等を放飼する。平成23年度はハビタット内にある小屋を農村家屋風に装飾しツシマジドリの展示を行う。
	日本産動物展示	カモシカやテン、アナグマ、ハクビシン、キツネやタヌキ等日本産の動物を多く飼育展示する。

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
	ゾウ舎	国内最高齢のアジアゾウであり、都民に広く親しまれている「はな子」(雌64才)を飼育展示する。
	ヤマネコ舎	ツシマヤマネコとアムールヤマネコを飼育展示する。一部非公開エリアを設け、ツシマヤマネコの繁殖に取り組んでいる。
	野鳥の森	日本の小鳥を集めている和鳥舎とヤマドリ舎からなる。ヤマドリは日本固有の鳥であり、全5亜種のうち4亜種の飼育展示を継続する。
	リスの小径	ウォークスルー形式の展示施設により、貯食行動等ニホンリスの様々な生態を間近に展示する。
	サル山	ニホンザルと近縁で、東アジアからインドに生息するアカゲザルを群れで展示する。
	熱帯鳥温室	温室型施設により、ヤシやパパイヤ等実のなる熱帯性植物とカンムリエボシドリ等の熱帯に住む鳥類を展示する。
	いきもの広場	平成22年度にビオトープの造成工事を実施。平成23年度からビオトープに生息する野生動植物をテーマとした教育普及活動を行う。
	彫刻園	長崎の平和祈念像で知られる彫刻家・故北村西望の作品を、彫刻館及び園内の雑木林の中に展示しており、コンサートや文化的なイベントも開催する。
	童心居	詩人故野口雨情の書齋を移築し、昭和62年に改築したもの。有料の貸し室として使用する。平成22年度には利便性向上のため補修工事を実施した。
	資料館	動物・植物に関するパネル展示や体験参加型イベントを実施する。2階は有料の集会場であり、各種イベントにも活用する。
2. 分園	水生物館	平成22年度に両生類検疫施設を整備。主に日本産の淡水生物を集め、川の上流から中流域における生息分布に応じた種を展示する。また身近な環境保全をテーマとした企画展示も引き続き行う。 (ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、トウキョウサンショウウオ、ツチガエル、ミズグモ、カイツブリほか)
	水辺の散歩道ほか	カモやハクチョウ等の各種水鳥を展示する。コールドック舎において来園者への教育普及活動を行う。 (オシドリ、カリガネ、ナベヅルほか)

第3 収 益 事 業

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園においてギフトや飲食品販売等の事業を実施する。事業運営によって得られた収益は、公益目的事業に繰り入れ、都民に還元する。

I. 事 業 総 括

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
1. 便益施設等の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	7
		(5) 写真(映像資料)貸出	1
		(6) ベビーカー貸出所	2
		(7) コインロッカー	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	3
		(4) 自動販売機コーナー	7
		(5) コインロッカー	1
(6) ライオンバス		1	
(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2	
	(2) 飲食店	1	
	(3) 自動販売機コーナー	2	
	(4) コインロッカー	2	
(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2	
	(2) 自動販売機コーナー	3	
2. その他事業	恩賜上野動物園内広告事業(広告施設10箇所)		
	協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ. 事業計画

〔1〕 便益施設等の経営

【施設名及び収入見込額】

園名	施設名	収入見込
恩賜上野動物園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 4号売店（店名：カメレオン） 3. 東食売店（猿山前） 4. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 5. 飲食店第1号（東園） 6. 飲食店第2号（西園） 7. 臨時売店 8. 自動販売機コーナー 9. ベビーカー貸出所 10. 写真（映像資料）貸出 11. コインロッカー 12. その他	1,399百万円
多摩動物公園	1. 2号売店（コアラ館） 2. 3号売店（ライオン園） 3. 4号売店（店名：コレクション） 4. 5号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（アフリカ園） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ライオンバス 9. コインロッカー 10. その他	579百万円
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	550百万円
井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はなこカフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	73百万円
合 計		2,601百万円

〔2〕 そ の 他 事 業

恩賜上野動物園内広告事業

恩賜上野動物園内の広告掲示施設にスポンサーを募り、広告事業を行う。
収益は、園内の案内誘導サイン等の整備資金に充当する。

種 別	数 量	設 置 場 所	収入見込
動物解説ボード	9基	ジャイアントパンダ、ニホンザル、カバ、サイ、ゾウ、ゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	10,366千円
環境啓発ボード	1基	モノレール東園駅前	

協賛金募集事業

広告掲示等により多数の企業から協賛金を募る、協賛金募集事業を行う。

ジャイアントパンダ保護サポート基金への協賛金募集事業で得られる協賛金については、必要経費を除いてジャイアントパンダ保護サポート基金に全額繰り入れる。

協 賛 金 種 別	協賛メディア	収入見込
ジャイアントパンダ保護サポート基金	広告、ロゴマークライセンス等	10,000千円

